

138-1 鎌倉小隧道を歩く (6.5km)

鎌倉駅から北西へと進んで、地形図で見つけたトンネルの記号から、この地域特有の砂岩層の尾根をくりぬいた小隧道（トンネル）によって谷と谷を結ぶ生活路を訪ね歩く。



小隧道 5（寿福寺の近く）

【地図豆知識】鎌倉の地形と地質：

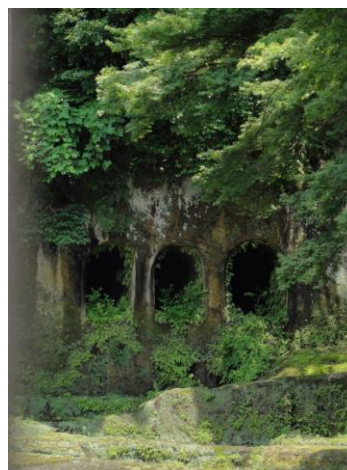
鎌倉市は、斜面と樹枝状に刻まれた大小の谷によって構成される三浦丘陵の北部域に位置している。大船地域を流れる柏尾川・砂押川、材木座を流れる滑川流域の一部は氾濫低地あるいは谷底低地となっているほか、由比ガ浜・材木座海岸付近には河川運搬物の堆積した砂堆と後背湿地が分布する。

表層地質は、露頭を一見してわかるように概ね凝灰岩質砂岩層の上に関東ローム層が数メートル堆積している。

【地図豆知識】鎌倉の“やぐら”：

鎌倉市周辺の山腹には、“やぐら”と呼ばれる横穴の存在が多数知られている（鎌倉には、三千から四千か所あるといわれている）。これらは主として鎌倉時代後半から南北朝時代頃にかけて作られた墓の一種である場合が多い。鎌倉市内でも最大規模のものは、百八やぐら群である。百八やぐら群は、覚園寺裏山の標高 110m 付近の丘陵上におよそ 2 段から 4 段に築かれ、百数十窟のやぐらがある。ここに限らず、岩質はいずれも前出の均質な凝灰質砂岩である。

ちなみに、鎌倉三大洋館ののこりの二つは、旧加賀藩主前田侯爵家の鎌倉別邸（鎌倉文学館 鎌倉市長谷 1-5-3）と旧華頂宮邸（鎌倉市浄明寺 2-486-1）である。



荘清次郎の別荘・塀越しに無量寺跡

無量寺跡と旧赤尾好夫邸：「無量寺跡発掘調査報告書」（2004年9月）によると、あたりの谷戸は「無量寺谷」と呼ばれ、無量寺があったとの伝承が残る土地である。もともとあった無量寿院は1285年（弘安8年）、鎌倉幕府の重臣安達泰盛と一族が滅ぼされた政変（霜月騒動）で焼失した。跡地に無量寺が建てられたとされているが、これと同一のものがどうかわかっていない。発掘調査で明らかになった安山岩川原石で底を敷きつめた石組遺構は、「一見すると井戸のような形であるが、深さや湧水の状況からして井戸跡ではなく、他の目的で作られたものと考えられる」と報告書は推定している。

半間の縁が西に貼り出す大型建物の礎石遺構も見つかり、その建物遺構の西側には小規模なものとはいえ、中ノ島のある池が岩盤上に掘り込まれていた。これは、瑞泉寺庭園より数十年早く造られたものとみられ、鎌倉の中世期の庭園としては最古のものとされている。

無量寺谷には、旺文社の創業者、故赤尾好夫氏が設立した財団センチュリー財団と関連の不動産管理会社などが所有していた立派な建物がある（2003年9月鎌倉市に寄贈）。そこは赤尾好夫のコレクションや絵画、彫刻などを収蔵するミュージアム建設計画があった。その館長宅を建設するに際しての調査で無量寺跡と思われる遺跡が発見された。

塀越しにその一部を見ることができる。

銭洗弁天（宇賀福神社）：境内洞窟にある清水で硬貨などを洗うと増えると伝えられていることから、銭洗弁財天（銭洗弁天）の名で知られる。

源頼朝が、巳年である1185年（文治元年）の巳の月（旧暦4月）巳の日に見た、夢の中に現れた「宇賀福神」が「西北の仙境に湧きだしている霊水で神仏を祀れば、平穩に治まる」と告げたという。この霊夢に従い、佐助ヶ谷の岩壁に湧く霊水を見つけ、そこに洞を

穿ち社を建てて宇賀神を祀ったと伝えられる。同じく巳年の1257年（正嘉元年）に、北条時頼がこの霊水で銭を洗って一族繁栄を祈ったのが銭洗の始まりだといわれる。

四方を急峻な崖で囲まれており、現在正面入り口は隧道になっている。



小隧道1（佐助隧道傍）・小隧道4（銭洗弁天隧道）

日野俊基（墓）：文保2年（1318年）に即位した後醍醐天皇の親政に参加して蔵人となる。後醍醐天皇の鎌倉倒幕計画に参加した罪で捕らえられ、日野資朝とともに鎌倉に護送された（正中の変）。この時俊基はゆるされたが、資朝は翌年佐渡に流された。

1331年（元弘元年）、後醍醐天皇は再度倒幕計画を企てるが、これが露見し日野俊基は再び捕らえられ、翌年6月3日仮粧坂の葛原ヶ岡で処刑された（元弘の変）。同じ頃、佐渡に流されていた日野資朝も処刑され、後醍醐天皇は隠岐に流された。墓所は、葛原岡神社の南にある。

源頼朝像・源氏山：源氏山は、奥羽を舞台とする後三年の役（1083～1087年）のとき、八幡太郎義家が出陣に際して、この山上に源氏の白旗を立てて戦勝を祈ったところから「源氏山」とか「旗立山」といわれるようになったといわれる。

寿福寺（北条政子墓、源義朝墓、高浜虚子墓、大佛次郎墓）：臨済宗建長寺派の寺院で、鎌倉五山第3位の寺院である。寺号は詳しくは寿福金剛禅寺という。本尊は釈迦如来、源頼朝が没した翌年の1200年（正治2年）、妻の北条政子が栄西（明庵栄西）を招いて創建した。

境内裏手の墓地には、陸奥宗光、高浜虚子、大佛次郎などの墓があり、さらにその奥の“やぐら”と呼ばれる鎌倉地方特有の横穴式墓所には、北条政子と源実朝の墓と伝わる五輪塔がある。



北条政子墓・隣接した“やぐら”

**** オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu ****